

まなざしと 記憶

宇野浩二の文学風景

令和4年度 福岡市文学館企画展

2023

1.13 fri » 2.26 sun

福岡市総合図書館 1階ギャラリー

○観覧時間／10時～19時(日曜・祝日は18時まで)

○休館日／月曜日、1月31日 ○観覧料／無料

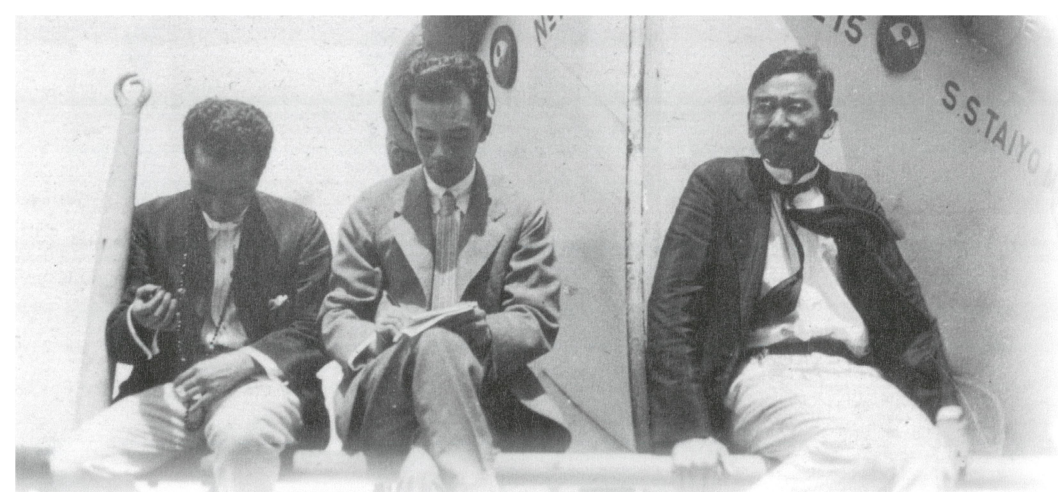
主催／福岡市文学館(福岡市文学振興事業実行委員会・福岡市教育委員会)

後援／(公財)福岡市文化芸術振興財団

※新型コロナウイルス感染症等の影響により、内容の一部が変更になる場合があります。

福岡市総合図書館
福岡市文学館
Fukuoka Literature Museum





大丸丸船上にて、左から里見弴、直木三十五、加能作次郎 (撮影：宇野浩二)



玉川遊行にて、左から里見弴親子と加能作次郎 (撮影：宇野浩二)

まなざしと記憶 宇野浩二の文学風景

「文学の鬼」と呼ばれた作家・宇野浩二が、大正時代、まだ稀少だったカメラを持ち歩き、大量の写真を残していたことをご存知でしょうか。当館「宇野浩二文庫」には、アルバムに収録された写真も入れると一千枚を超える写真群が存在します。この度、コレクションの再調査を行い、その中に大正期に宇野自身が撮影した写真が大量に含まれていることを確認しました。

宇野は、その文学的回想録『文学の三十年』や評伝『芥川龍之介』の中で自身の撮影した写真を何度も紹介していますが、没後、これまでこうした写真群が紹介される機会はありませんでした。

宇野浩二にとって、またその文学にとって、この膨大な写真群は、どのような意味を持つものだったのでしょうか。

本展は、「まなざしと記憶—宇野浩二の文学風景」と題し、作家の写真とテキストの関係性を初めてご紹介する展覧会です。彼の文学の風景を辿り、彼の人生に重要な意味をもたらした〈場〉と友情、そして旅——膨大な写真群を、作家が後半生に於いて何度も語り直したテキストを手がかりに紐解いていきます。

百年の時を越えて、作家のまなざしと記憶が鮮やかに甦ります。

どうぞ、ご高覧ください。



諏訪湖にて、直木三十五 (撮影：宇野浩二)



芥川龍之介から贈られた
ゴーゴリ半身像
(個人蔵)

企画展関連イベント

「写真展 西海旅日記」

- 会場：総合図書館1階ショールーム
- 会期：1月13日(金)～29日(日)
- 観覧料 無料

ギャラリートーク (学芸員による見どころ解説)

- 日時：1月15日(日)、2月19日(日) 16:00～16:30
- 会場：総合図書館1階ギャラリー
- 定員：10名程度 (先着順)

企画展関連講座① 要申込

「宇野浩二の「語り」の可能性」

講師：山岸郁子氏 (日本大学教授)

- 日程：1月21日(土) 14:00～15:30 (開場：13:30)
- 締切：1月9日(月・祝)
- 会場：福岡市総合図書館第1会議室
- 定員：40名 (要事前申込・定員を超えた場合抽選)

企画展関連講座② 要申込

「宇野浩二と大阪—人物・追憶・風景—」

講師：増田周子氏 (関西大学教授)

- 日程：2月19日(日) 14:00～15:30 (開場：13:30)
- 締切：2月10日(金)
- 会場：福岡市総合図書館第1会議室
- 定員：40名 (要事前申込・定員を超えた場合抽選)

【申込方法】

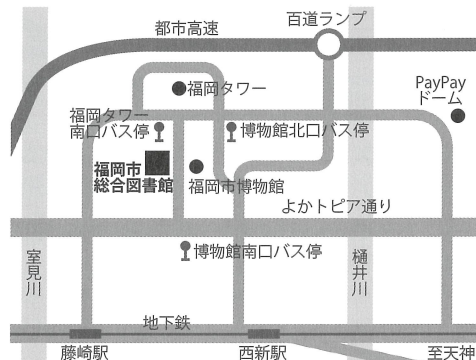
応募事項 (1)氏名 (2)郵便番号 (3)住所 (4)電話番号をもれなく記入の上、Email、葉書、FAXのいずれかの方法で下記宛先までお申し込みください。定員を超えた場合は抽選を行い、当選者(受講決定者)のみご連絡します。

【申込・お問合せ先】

〒814-0001
福岡市早良区百道浜3丁目7-1
福岡市総合図書館 文学・映像課福岡市文学館担当
TEL 092-852-0606 FAX 092-852-0609
Email bungakukan@city.fukuoka.lg.jp

宇野浩二 | うのこうじ 1891.7.26～1961.9.21

作家。福岡市南渡町(現・中央区荒戸)生まれ。本名・格次郎。2歳の時、父親の急死により一家で関西に移住。早稲田大学英文科中退。「蔵の中」で文壇デビューし、「山恋ひ」「苦の世界」で人気作家となる。一時は精神を病み再起を疑われたが、「枯木のある風景」で復帰。その作品から「文学の鬼」と称された。享年70。



地下鉄／「西新駅」下車徒歩20分
西鉄バス／「福岡タワー南口」「博物館北口」「博物館南口」
下車徒歩5分

●お問い合わせ先
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1
福岡市総合図書館 文学・映像課福岡市文学館担当
TEL:092-852-0606 FAX:092-852-0609

